chojiai.jp

お母さん、けいこさん。

この春の朝、家族に見守られて静かに旅立たれたとき、胸のどこかで覚悟していたはずの別れが、やはり現実にならず、ただ名前を呼ぶことしかできませんでした。今日こうして皆さまの前で、お母さんに言葉を届けられることに、感謝と寂しさが入り混じっています。どうか、少しのあいだだけ、いつものように「うんうん」と頷きながら、そばで聞いていてください。

お母さんは仙台で生まれ、春の匂いが似合う人でした。短大を出て保育士になり、子どもたちの成長を自分のことのように喜ぶ姿は、私の物心ついたときから変わりませんでした。結婚して東京に移り、私と妹の遥、美咲を育てながら、地域の子育てサロンを立ち上げ、二十年以上も続けられました。肩肘張らずに、人の輪をつくるのが上手で、初めて来たお母さんたちの緊張を一瞬でほどいてしまう。あの、明るく通る声と、ひざ掛けをすっと差し出す手。困っている人に自然と手を伸ばせる、そのやさしさの根っこには、芯の強さがありました。

思い出は、台所の湯気とともにあります。出汁の香りが家じゅうに広がると、私たち姉妹も夫の一郎も、いつのまにか食卓に集まっていました。季節の行事づくりはいつもお母さんの出番で、七夕の短冊は色の順番まで決まっていて、ひな祭りには必ず白酒の代わりに甘酒を。玄関には季節の花がいけられ、とりわけスイートピーのやさしい色合いは、お母さんそのものでした。家庭菜園で採れた青じそや茄子が並ぶ夏の食卓、秋の栗きんとん、冬のきんつば。和菓子づくりの手際のよさと、少しだけ小豆を残して食感を出す工夫、その秘訣は、レシピ帳にびっしり書かれていて、これから私たち家族で大切に引き継ぎます。

お母さんの口癖は「誰か一人でも笑顔になれば、それで十分」。約束は守るもの、感謝は言葉で伝えるもの。そんな当たり前を、背中で教えてくれました。朝の散歩とラジオ体操

chojan.jp であなただけの弔辞を作成

は雨の日でも欠かさず、帰ってくると必ず「おはよう、今日もいい日になるよ」と声をかけてくれました。その言葉に、どれだけ支えられてきたか、今さらながら思い知らされます。

一番心に残っているのは、あの日のことです。大雨で制服がずぶ濡れになって帰った私に、「大丈夫」と言って、夜遅くまで黙って乾かしてくれたお母さん。翌朝、玄関で靴ひもを結ぶ私に、「大丈夫、今日は晴れるよ」と笑って送り出してくれました。天気予報よりも、ずっと頼りになる予報でした。あの声が今も耳に残っています。

お母さんは人見知りをせず、誰とでもすぐに打ち解けました。子育てサロンの輪が広がったのも、読み聞かせボランティアが長く続いたのも、「最初の一人」に向けて、同じ温度で話しかけるから。小さな椅子に腰かけて、絵本を開く前に必ず「今日はどんな一日にしようか」と問いかける。子どもたちの目が、ぱっと輝く瞬間を、何度も見ました。お母さんが残したのは、レシピだけではありません。人の目を見て、名前を呼び、最初の一声で緊張をとかす、そのやり方です。

家族は、夫の一郎、娘の私と妹の遥・美咲、そして三人の孫。仙台には兄と妹。いつ集まっても、話の始まりは「まずは食べよ」でした。湯飲みを両手で包み込むあの温かい手のぬくもり、食卓から漂う出汁の香り、そして、どんな時でも最初に「よく頑張ったね」と言ってくれる声。私たちがこれから何より恋しく思うのは、その三つです。けれど、ふしぎなことに、今日の式場をやさしく彩るスイートピーを見ていると、そのすべてがここにあるような気がします。

ご会葬くださった皆さま、お母さんが生前お世話になりました方々に、家族を代表して心より御礼申し上げます。お母さんは、皆さまの支えに何度も励まされました。どうか、これからも時折で結構ですので、思い出話を聞かせてください。笑って、少しだけ泣いて、また笑えるような、そんな時間を分け合えたら、それがお母さんの望みでもあります。

お父さん。長い年月、本当にお疲れさまでした。お母さんが大切にしてきた朝の散歩、今

chojiai.jp であなただけの弔辞を作成

度は私たちも一緒に歩きます。遥、美咲、お母さんの「最初の一声」を、私たちも受け継ごう。子どもたちには、まず「よく頑張ったね」と伝えよう。そして、台所の鍋から立ちのぼる湯気を見るたびに、ここからまた始められる、と信じよう。

お母さん。たくさんの「はじめて」を、ありがとう。初めて結んでくれた三つ編み、初めて作ってくれたお弁当、初めて背中を押してくれた朝。これからもきっと、私が立ち止まりそうなときには、「大丈夫、今日は晴れるよ」と、どこかで言ってくれるのでしょう。私も、あなたに倣って、約束を守り、感謝を言葉にし、目の前の誰か一人を笑顔にできるように生きていきます。

どうか、少しゆっくり休んでください。春の光のなかで、スイートピーに囲まれて。お母さん、ありがとう。心から、ありがとう。

行ってらっしゃい。また、ただいまと言える日まで。

この弔辞は chojiai.jp
で作成されました。いくつかの質問に答えて、今すぐあなただけの弔辞を作成しましょうchojiai.jp

chojiai.jp であなただけの弔辞を作成